

お薬と健康に関する意識調査

服薬管理は在宅介護者の大きな負担

・在宅介護を行なっている介護者の約4割が、要介護者に薬をきちんと飲ませることに負担を感じている。

一般社団法人 全国介護者支援協議会は、10月18日に開催される『骨粗鬆症プレスセミナー』に先立ち、首都圏および被災地で在宅介護を行なっている家族介護者の男女200名を対象に「お薬と健康に関する意識調査」を実施した。

【調査概要】

調査地域 : 首都圏および被災地

調査方法 : 訪問アンケート調査

調査日時 : 2012年9月10日～9月20日(第1次締め切り)、9月24日(第2次締め切り)

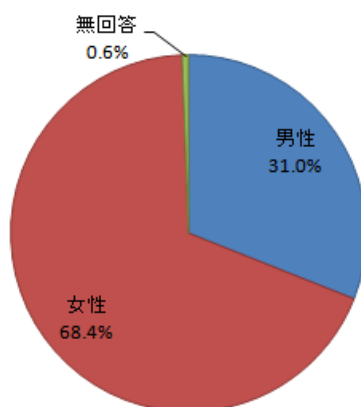
調査対象 : 現在在宅で介護を行なっている男女 200名
(有効回答数 171 回答率 85.5%)

調査主体 : 一般社団法人 全国介護者支援協議会

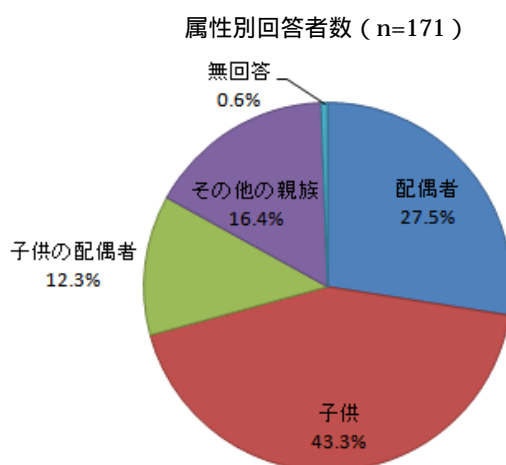
以下に本調査で得た調査結果について簡単にまとめたものを記載する。

在宅介護者の中心は女性

「お薬と健康に関する意識調査」の有効回答者(171名)における男女比は「女性(68.4%)」、「男性(31.0%)」となっており、依然として介護が女性の仕事となっている現状が分かった。(無回答 0.6%)



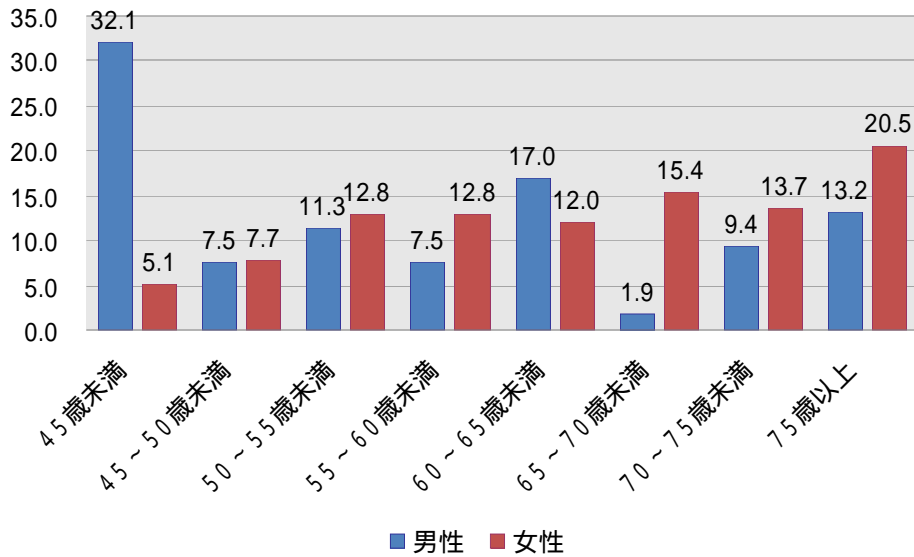
介護者と要介護者の関係では、「配偶者(27.5%)」に対して「子供(43.3%)」「その他の親族(16.4%)」「子供の配偶者(12.3%)」となっており、在宅介護者の中で子供の占める割合が大きくなっていることが分かった。(無回答 0.6%)



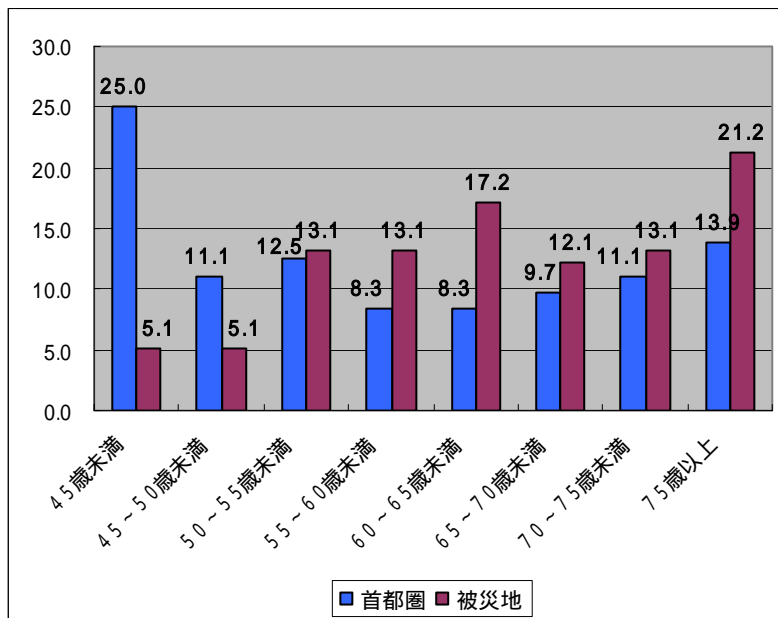
介護者を年代別に見た場合、男性では50代未満が約4割と比較的若い世代を中心としていることに対し、女性は特定の年代に偏ることなく幅広い年代で介護が行なわれている。

介護者全体で見た場合は、65歳以上の介護者が半数以上となっており、高齢となった子供が高齢となった親の介護を行なう現状が分かった。

性別・年齢別回答者数 (n=171) 【%】



回答地域・年齢別回答者数 (n=171) 【%】



なお、本調査の回答者数は、調査客対数が200名と少なく「介護者」として一般化することは困難であるが、介護者の傾向をおおよそ反映しているものとして分析を行なっている。

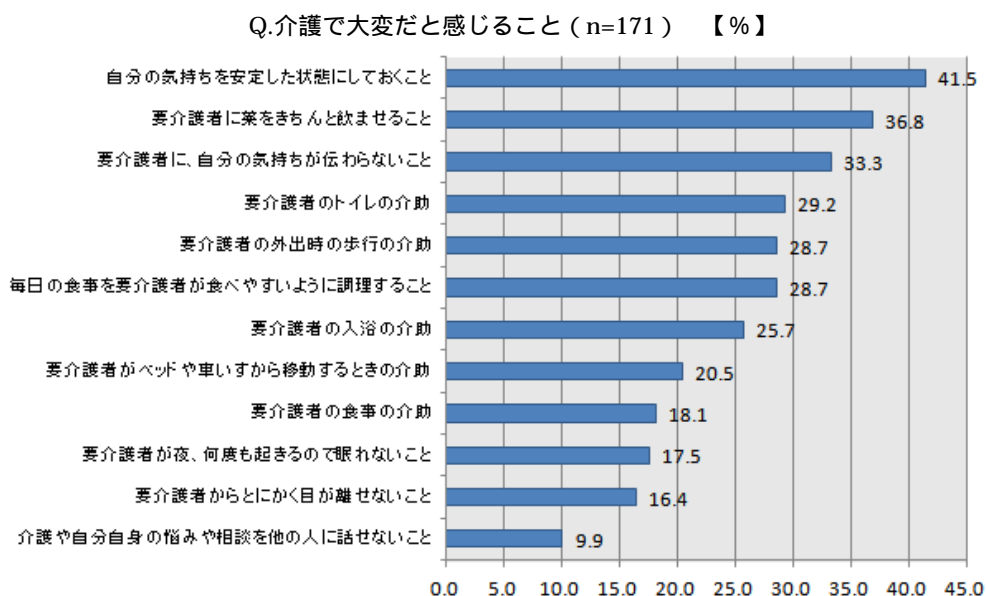
また、調査対象となった被災地域では、主に仮設住宅で在宅介護を行なっている男女が回答しており、弊会が行なった調査(註1)から、経済的状況および居住環境などの点から回答者は比較的高齢層の介護者が多くなっていると類推することができる。

註1) 厚生労働省 H23 年度社会福祉推進事業

東日本大震災における高齢者・障害者に対する福祉支援のあり方に対する調査研究事業

介護で大変と思うこと

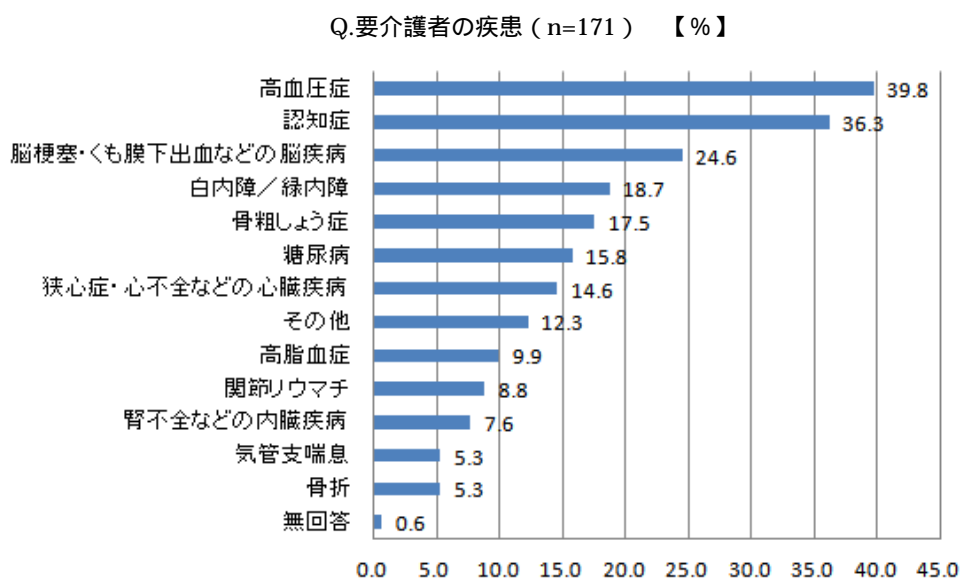
『在宅介護における悩み、大変と思うこと』については、性別、年代にかかわらず「自分の気持ちを安定させる」(41.5%)との回答が最も多く、次いで「要介護者の服薬管理」(36.8%)、「要介護者に自分の気持ちが伝わらない」(33.3%)などの回答が多数を占めた。



この結果から、在宅介護者にとって介護では精神的なストレスと並んで、要介護者への服薬管理が大きな負担となっていることが分かった。

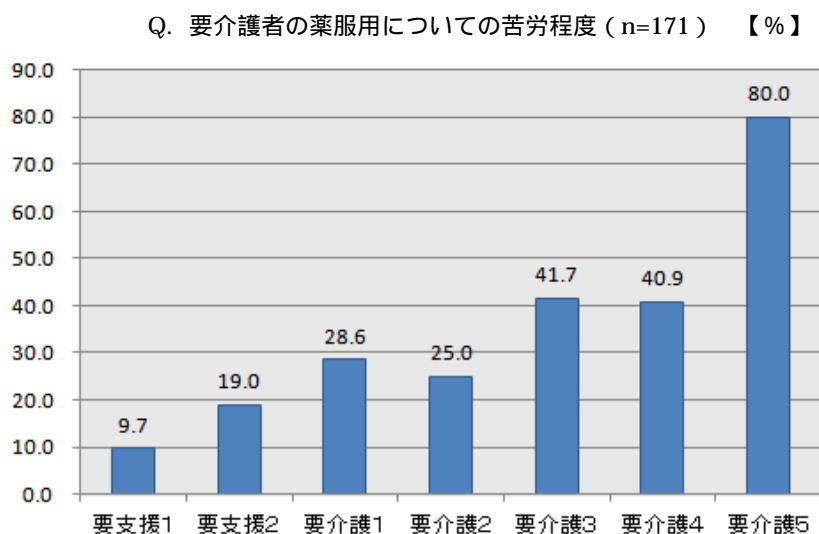
要介護者と服薬の関係

要介護者の持病について、今回調査を行なった中では、「高血圧症(39.8%)」、「認知症(36.3%)」、「脳梗塞など(24.6%)」などを患っている要介護者が多数を占めた。(無回答0.6%)



要介護者の服薬状況については、1回平均約3錠の飲み薬を服薬しているが、要介護度が高くなるに従い、1回に飲む薬の種類、量が増える傾向にあることが分かった。

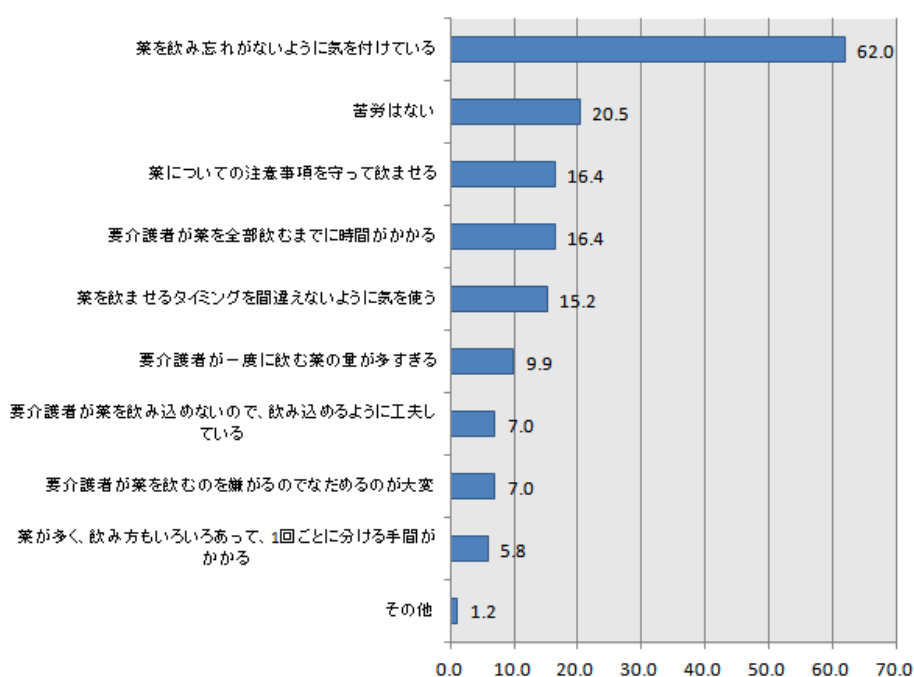
また、要介護者の服薬管理では、下記グラフの通り要介護者の介護度が高くなるにつれ介護者の「苦労している」との回答が多数を占めた。



『服薬管理での苦労内容』については、「薬の飲み忘れがないようにする」(62.0%)との回答が半数以上を占めた。

本調査における要介護者の多くが認知症や高血圧症、脳梗塞など身体に過大な負担がかかる疾病を抱えており(P4. 要介護者の疾病グラフ参照)、介護者の多くが薬の飲み忘れによる身体状況の悪化を不安に思う気持ちが強いことが分かった。

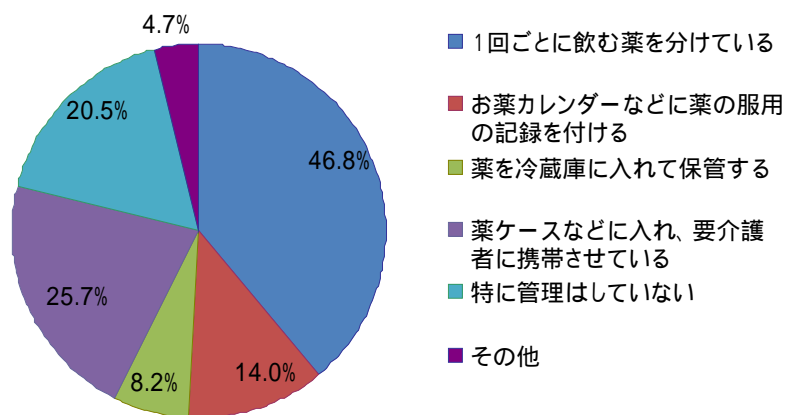
Q. 要介護者の薬服用について苦労内容 (n=171) 【%】



介護者による服薬管理

介護者による要介護者の服薬管理方法では、「1回ごとに小分け(46.8%)」、「薬ケースなどで要介護者に携帯(25.7%)」との回答が多数を占めた。

Q. 要介護者が飲む薬の管理方法 (n=171)



多くの介護者が要介護者の服薬管理について1回毎の小分けを行っており、服薬の回数、薬の種類、薬の量など要介護度が重くなるに従い、介護者の手間だけでなく、要介護者に携帯させた薬の飲み忘れにも気を配らなければならない、介護者の負担は増加している。

【まとめ】

本調査では、首都圏および被災地で現在介護を行なっている介護者を対象に調査を行なった。その結果、多くの介護者が精神的なストレスとともに服薬管理に煩わしさを感じていることが分かった。

特に、服薬管理については介護者の多くが、要介護者の要介護度が高くなるに従い、介護者自身にかかる負担も増加していると感じていることが分かった。

在宅介護は介護者に大きな負担がかかっており、介護者の高年齢化により介護による身体的・心理的負担も大きくなっている。

在宅介護者が抱える負担のうち、精神的なストレスについては、介護者や要介護者など個々人の問題が大きく簡単に解決するのは難しい。

しかし、服薬管理については服薬する薬の種類を改めることで負担を改善することもできる。

このような負担を軽減していくことが、在宅介護を行なっている介護者に対する支援となり、介護終了後の第2の人生を謳歌することに繋がっていくのではないかと。